

医療事故が起こったときのあるべき対応

～ 真実説明指針の普及と定着をめざして～

「医療の質・安全学会 新しい医療のかたち賞」受賞記念シンポジウム

日時：2010年10月24日(日) 13:00～17:30 受付：12:35～

会場：全社連研修センター 大会議室

〒108-8543 東京都港区高輪3-22-12 (JR品川駅高輪口より徒歩約7分)

主催：医療事故：真実説明・謝罪普及プロジェクト：社団法人 全国社会保険協会連合会

入場料：無料

12:35 開場 受付

13:00 開会

主催者挨拶/オープニング・メッセージ

社団法人 全国社会保険協会連合会 理事長 伊藤 雅治

医療事故：真実説明・謝罪普及プロジェクト チームリーダー 埴岡 健一

13:05 **第1部「広がりはじめた真実説明」**

ファシリテーター あいさつ

国際医療福祉大学大学院 教授 大熊 由紀子 氏

「真実説明指針とはなにか(概要と経緯)」 プロジェクトチームから

「全社連版・医療有害事象・対応指針-真実説明に基づく安全文化のために-の作成と普及」

社団法人 全国社会保険協会連合会 理事長 伊藤 雅治

「日本赤十字社版・ガイドラインの作成」

日本赤十字社 事業局医療事業部医療安全課 課長 最所 浩美 氏

「相模野病院における真実説明の実践」

社会保険 相模野病院 病院長 内野 直樹 氏

Q & A

14:00 休憩

14:10 **第2部 「真実説明と医療事故調査～鳴門病院事故の教訓から～」**

ファシリテーター：国際医療福祉大学大学院 教授 大熊 由紀子 氏

「鳴門病院事故の概要と調査報告」

岡山大学医学部教授(医療政策・医療経済学) 浜田 淳 氏

「鳴門病院における事故対応の経緯」

健康保険鳴門病院 リスクマネジメント委員会 委員長
脳神経外科部長 阿川 昌仁 氏

「鳴門病院事故から学ぶべき教訓」

全社連 医療安全対策室長 渡邊 両治 氏

「院内事故調査ガイドラインについて」

神谷法律事務所 弁護士 神谷 恵子 氏

「医療事故調査の歴史とあるべき姿」

日本経済新聞社 東京本社編集局 社会部
(厚生労働省&医療班担当) 記者 前村 聡 氏

Q & A

15:15 **特別コメント(当事者の声)**

医療事故経験者の立場から

医療事故市民オンブズマン・メディアオ 副議長 菅俣 弘道 氏

医療提供者の立場から (レター出演)

架け橋 - 患者・家族との信頼関係をつなぐ研究会 高山 詩穂 氏

Q&A

15:40 休 憩

15:50 **特別コーナー(質問票への回答)**

16:10 **第3部 「真実説明とあるべき事故調査の浸透に向けて」パネルディスカッション**

コーディネーター：医療事故：真実説明・謝罪普及プロジェクト チームリーダー 埴岡 健一

真実説明プロジェクトから

岡山大学大学院医薬学総合研究科
医療政策・管理学分野 教授 浜田 淳 氏

社団法人 全国社会保険協会連合会から

社団法人 全国社会保険協会連合会理事長 伊藤 雅治

日本赤十字社から

日本赤十字社 事業局長 山田 ^{ふみと} 史 氏

日本病院団体協議会(日病協)から

日本病院会会長 堺 常雄 氏

患者側当事者から

医療事故市民オンブズマン・メディアオ 副議長 菅俣 弘道 氏

ジャーナリストから

朝日新聞 編集委員 出河 雅彦 氏

医療の質・安全学会から

医療の質・安全学会 理事長
自治医科大学 学長 高久 史磨 氏

ディスカッション

17:25 **シンポのまとめと、これからの普及に向けて**

医療事故：真実説明・謝罪普及プロジェクト チームリーダー 埴岡 健一

17:30 **閉会**

総合司会：医療事故：真実説明・謝罪普及プロジェクト事務局長 牧田 篤

18:00 <懇親会>

会場：全社連研修センター内

全社連研修センター

〒108-8543 東京都港区高輪3-22-12

JR品川駅 高輪口より徒歩7分。

品川駅から第一京浜(国道15号)を約350メートル北上。

『タマホーム』脇の細い道を左折すると奥の右手に研修センターの建物が見えます。

